

## 「アッバ、父よ」、ここに救いがある！（2022. 6. 19）

はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」（ルカ 18:17）

イエス様に触れてもらおうと、乳飲み子を連れてきた母親たちを、弟子たちは叱った。主の働きの妨げになると考えたのだ。ところが、イエス様はこれを見て憤り、弟子たちに上掲の御言葉を発し、幼子たちに手を置いて祝福されたのである。

では、「子供のように神の国を受け入れる人」とはどのような人なのだろうか。ハッと気づいた。それは、イエス様ご自身である。「アッバ、父よ」と全生涯を貫いて、神様に呼び掛ける姿が物語っているのではないか。「アッバ」というのは幼児語で、「パパ」という、神様に対する全幅の信頼と深い愛情がこもった言葉である。まさに神様が私たち人間を創造されたのは、このような親密な関係のなかで生きるため、つまり神の子として生きるためである。まさに救いとはこの関係の回復である。十字架がその道である。

ところが、残念ながら、多くの人々は、自分自身が創造された存在であることを否定し、さらには、神様なんかいないとかいう。これでは人間は浮き草・根無し草である。あるいは、あれが神だ、これが神だと偶像崇拜する。これでは関係の回復などありえない。そんな中で、ただ1人、イエス様だけが、神様を「アッバ」と呼びかけて地上の全生涯を歩まれ、救いの姿を見せ、救いの道を開かれたのである。このイエス様と同じ姿に造り変えられることが救いである。聖霊の働きによってやがて私たちは造り変えられる、聖書はそのように約束している。

昔、父親から「高い、高い」と高〜く挙げられたこと、ありませんか。あるいは、「高い、高い」したこと、ありませんか。聖霊によってその時の心を思い出し、小さな<sup>x3</sup>幼子になって、「アッバ、父よ」と神様を仰ぐ者になりたい。特に「天にまします我らの父よ」と「主の祈り」を祈る度に、その心を思い起こしたい。ある時、神の国に入っている自分に気づくことがある。聖霊の働きである。関係が変わると存在が変わるのである。

「あなたたちは牛舎の子牛のように、躍り出て跳び回る。」（マラキ 3:20）

